

宮城県の景況判断

総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している。

概 況

生産は全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している。需要面の動きをみると、公共投資は震災復興旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している。住宅投資は、震災に伴う建替需要の反動などにより基調としては減少している。個人消費は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。雇用情勢は総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている。

(参考) 県内景況判断の推移

	2018年11月	12月	2019年1月
総括判断	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)
生 産	全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している	全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している	全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している
個人消費	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている
住宅投資	建替需要の反動などにより基調としては減少している	建替需要の反動などにより基調としては減少している	建替需要の反動などにより基調としては減少している
公共投資	震災復興旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復興旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復興旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している
雇用情勢	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている
企業の景況感	(2018年1～3月) 一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては持ち直しの動きとなっている	(4～6月) 一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては持ち直しの動きとなっている	(7～9月) 持ち直しの動きが鈍化している

注) 下線は前月(回)からの変更箇所